

製品名: COL2A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09183**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	140kDa

抗原情報

遺伝子名	COL2A1
別名	COL2A1; Collagen alpha-1(II) chain; Alpha-1 type II collagen
遺伝子 ID	1280.0
SwissProt ID	P02458
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン II 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 101-150

背景

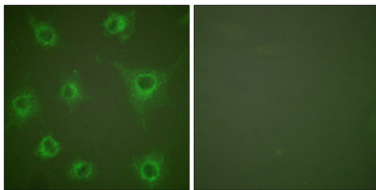
この遺伝子は、軟骨および眼の硝子体に含まれる線維状コラーゲンである II 型コラーゲンの $\alpha 1$ 鎖をコードしています。この遺伝子の変異は、軟骨無形成症、軟骨異形成症、早期発症型家族性変形性関節症、先天性 SED、ランガー・サルディーノ軟骨無形成症、ク

ニースト骨異形成症、スティックラー症候群Ⅰ型、およびストラドウィック型脊椎骨端骨端異形成症と関連しています。さらに、このコラーゲン分子のCプロペプチドであるカルシウム結合タンパク質であるコンドロカリンのプロセッシング異常も、軟骨異形成症と関連しています。

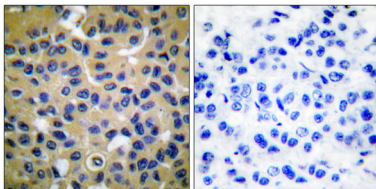
研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;

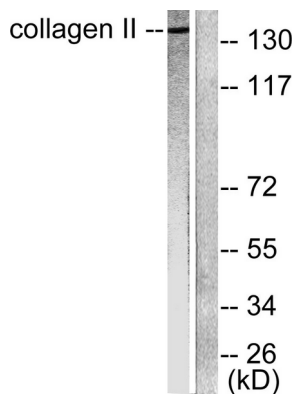
画像データ



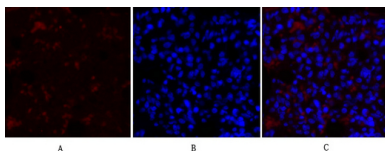
コラーゲンⅡ抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



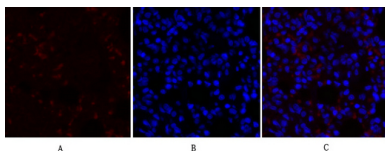
パラフィン包埋ヒト乳癌組織のコラーゲンⅡ抗体を用いた免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



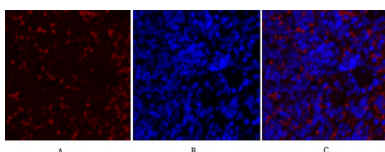
COLO205 細胞ライセートのコラーゲンⅡ抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



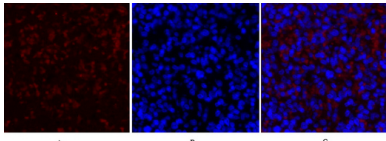
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1,COL2A1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4℃、一晚)。2,Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3,図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



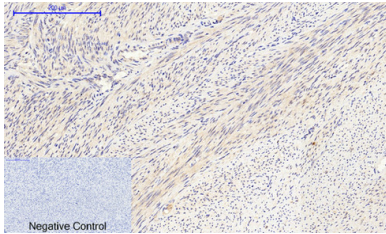
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1,COL2A1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4℃、一晚)。2,Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3,図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



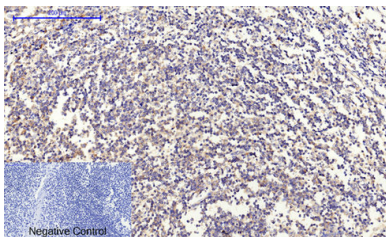
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1,COL2A1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4℃、一晚)。2,Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3,図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, COL2A1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. COL2A1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. COL2A1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。